

「地域の文化継承活動 助成事業」 地域と学校の文化活動を応援します

この事業は、「次代を担う子どもたち」と「地域の皆様」が一体となった教育活動や文化継承活動を支援するため、活動資金の一部を助成するものです。

「長野県内の小中学校」と「地域の皆様」による交流・連携が一層充実したものとすることを旨とし、2024年度も継続して実施いたします。今後、ホームページなどで募集のご案内をしていきますので、たくさんのご応募をお待ちしています。

2023年度 助成先一覧表 (申込順)

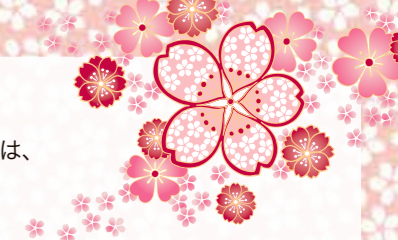
助成先	交流・連携先	事業名
長野市立戸隠小学校	・井上栄一氏 (井上竹細工店) ・小川秀一氏 (写真家) ・小川朱実氏 (自然観察インストラクター) ・徳武有紀氏 (とがくしっこ応援団団長)	「戸隠のひと・もの・こと」を通じた文化継承の学習
阿智村立浪合小学校	・岡庭啓真氏 (阿智村そば愛好会) ・近藤和仁氏 (念流太鼓指導者)	そば打ち体験と念流太鼓の継承
松本市立波田小学校	・太田貞子氏 (太田農園) ・味工房はた そば部会	地域の伝統食・郷土食づくり (波田漬け・そば打ち・おやきづくり)
松本市立田川小学校	・横山裕己氏 (松本ホテル学会事務局) ・みどりと景観を考える会	田川の生き物調査と 犀川通船の歴史学習
中俣神楽保存会	・長野市立柳原小学校	獅子舞と神楽囃子の継承
飯田市立遠山中学校	・霜月祭保存会 (和田) ・霜月祭保存会 (木沢) ・霜月祭保存会 (程野)	「霜月祭り」郷土の舞の継承
佐久穂町 ふるさと遺産収蔵館友の会	・佐久穂町立佐久穂小学校	「むかたんクラブ」の活動と「地域交流企画」の支援
松本市立本郷小学校	・浅間温泉観光協会 ・醫王院神宮寺	浅間温泉の歴史探求と 紹介パンフレットの作成
劇団 すずの音	・松川村教育委員会	安曇地方に伝わる民話の劇の公演
中央地区夏祭り実行委員会	・松本市立開智小学校ほか	伝統行事「ぼんぼん・青山様」の継承

【支援の対象となる文化継承活動】

- 「長野県内の小中学校」と「地域内の個人・団体」による地域一体となった取り組み
- 地域に根差した伝統文化、民俗芸能、郷土の歴史、食文化等の保存と伝承。
 - 地域の文化活動を目的とした、まちづくり、自然保護、環境保護のための活動。



「地域の文化継承活動 助成事業」の詳細は、
ウェブページをご参照ください。
<https://www.82bunka.or.jp/grant/>



飯田市立遠山中学校

遠山郷の「霜月祭り」は湯立神楽の古い形態を今も伝承する、国指定重要無形民俗文化財です。遠山中学校の全校生徒は、霜月祭り保存会の皆様の指導のもと、祭りの神事である伝統的な舞を覚えます。地区によっては次代継承の担い手を期待され、本番の「霜月祭り」で、伝統の舞を披露します。

保存会からお借りする白装束などは神事で使う衣装のため大切に扱っています。今年度の事業では、遠山中学校に対して、衣装のクリーニング費用、小道具や足袋の購入費用を助成しました。

12月9日(土)に遠山郷の小道木/川合の「霜月祭り」が熊野神社で行われました。例大祭の神事はさまざまな内容

で朝は7時45分から夜の9時まで行われました。神事の一つに「学童の舞」があります。地域の中高生が演舞者となり、夕方の5時20分から40分間で扇子舞、剣舞、天白の湯立ての神事が執り行われました。舞殿で取り囲む地域の皆さんの熱い視線が注がれるなか、太鼓と笛に合わせて迫力の舞が演じられました。神社の厳かな雰囲気の中で、素晴らしい舞に視線が釘付けになりました。「鎮めの湯」の神事を経て、神々の面が37面次々と登場しました。村内にまつる神々の登場で舞殿は湯釜を中心に賑やかになりました。今後も「霜月祭り」の伝統が引き継がれることを願っております。



「学童の舞」 中高生による四つ舞 (扇子舞)



「学童の舞」 中高生による四つ舞 (剣舞)



「面 (37面)」 村内にまつる神々が舞殿を巡ります

劇団 すずの音

「劇団 すずの音」は、小学2年生から70代まで幅広い年代で構成され、北安曇郡松川村を中心に、地方の民話を採りあげて上演しています。今年度の事業では、劇に使用する大道具・小道具・衣装の制作費用を助成しました。

11月19日(日)には、松川村の「すずの音ホール」における第14回定期公演で、「大町市・安曇野に伝わる民話 泉小太郎」が上演されました。人間に育てられた竜の子が、飢えや貧困に苦しむ村人のために、母竜と共に水害を引き起こす岩山を崩し、肥沃な農地を切り開くお話です。

今回の公演では、7人の子供たちが出演しました。小太郎、

老夫婦、村の子供・年寄・大人たち、竜などを、出演者たちは堂々と自然体で演じ上げ、観客は、実在するかのような臨場感に引き込まれました。コミカルな場面では声を上げて笑い、みんなが心を一つに闘ったクライマックスでは目を潤ませ、すすり泣き、大団円のフィナーレには盛大に拍手を送りました。

舞台脇での「信濃国松川響岳太鼓」の迫力ある生演奏、宙を舞う竜や小太郎が跨る巨大な竜などの団員やボランティアの方々の手で作りあげた説得力のある造形・演出も、劇をより盛り上げました。子供たちにとっては特に、楽しく忘れ難い、故郷での経験になったことと思います。



小太郎が母竜に跨るクライマックスシーン



「信濃国松川響岳太鼓」の力強い演奏



キャスト・スタッフで公演最後の舞台挨拶